

## 第47回緩和ケアリンクにいがた定例会 感想・要望

### 【医師・歯科医師】

- ・病院から退院する時、在宅をお願いする時にもっと患者さんや家族の希望をきいて、安心できるようにしていきたいと考えさせられました。
- ・訪問看護は「自立支援」とても共感できました。皆さんの自己紹介をきいて明日からのパワーをいただきました。
- ・病院ではよく「今しか帰れない」「本人が希望するから」といって在宅療養となるが「今」とはだれにとって今かを病院医師、スタッフとして考えて帰してほしいし、本人が望む時に帰すが、望むという行動をおこすまでに本人はかなり労力を使っているので、おくれ気味になってしまっていると感じられる。主治医が早目に在宅医にもかかわって頂ける状況を作り上げることの重要性を病院内スタッフに感じてもらいたいと思う。「死」のその時に多く医療ができるではなく生活をどう支えるかが重要と思うので、死をむかえるまでの生活をしっかりと支えた上でそれまでの経緯を医療としてどれだけ関われるかが重要と思う。死のプロはいないというがプロ意識をもって対応できることが大切なので看取りのケアは訪問看そのものだと思いました。在宅でのがん患者への訪問看護の関わりが短いというがぜひ長くできるような状況をつくれたらと思いました。
- ・一人一人全ての状況が違う中、いかに寄り添っていくかということ。思いが伝わってきました。とても勉強になりました。末期の方に関わった時間は、時間が経っても不思議とずっと忘れられません。関わるからには少しでも勉強させて頂きたいと思います。
- ・自己紹介良かったです。よくわかりました。10年は長いですね。

### 【保健師、看護師】

- ・お三人さまのお話をきいて、昨年4月から始まった訪問看護での利用者様とのかかわりが、いろいろできました。それぞれ本当にそうだと心にひびくことがたくさんありました。今日は良い言葉をたくさん聞き、みなさんの自己紹介で、しっかりした考えもってらっしゃるので本当に勉強になりました。
- ・訪問3人(ST)のお話してもよかったです。1人の話だと…ですが3パターンのお話で深いところまで訪問看護を感じることができました。在宅医療介護連携センターへの相談内容でも、がんを含め医療依存度の高い人が増えている現状がありありと見えます。このような勉強会がとても必要だと思います。
- ・訪問看護師さんたちのお話はそれぞれ個性的で、でも皆さん表面的でないケアを創造していらっしゃる様子に刺激をうけました。また全員の1分間+αスピーチも、皆さんのがつい思いにふれられた気がしました。
- ・支えるということが、こんなことなんだなあとつくづく感じました。緩和ケアのやりがい、訪問看護のすばらしさを感じました。病院の看護が看護師側の自己満足になっていないか心配になります。本当の支える、よりそういうことのできる職員が育ってほしいと切に思います。
- ・仕事の都合上、開始時間が遅いのは仕方のないことだと思いますが、足場の悪い中、できれ

ばもう少し早い時間にできるとよいと思います。(皆様疲れないでしょうか…)

病院と訪看との看看連携を充実させるための情報共有(効率的、効果的な)や、がん患者さんとの関わりの中から学んだエンパワーメント等のテーマについて検討できるとよいと思いました。

- ・訪問看護師さんの話をきくきかいは、なかなかないので、とても勉強になった。
- ・「生活を支える医療」「より添う医療」を提供する要となる訪看は非常に重要です。行政としても訪看の皆さんが充分に負担なく働いていただくようにしくみづくりを努力したいと考えています。
- ・3人の発表を聞き、今までの看取りのケースを思い出していました。御家族となかなか気持ちが通じ合えない事、苦痛のイラ立ちをむけられた事、「最期は家で迎えさせたい」と思っていても途中でゆれ動くこと。今後もその時々の気持ちのゆれに、寄りそっていけるよう、看護をしていきたいと思いました。ケースを振りかえる良い機会となりました。
- ・訪問看護での緩和ケアされた方の話をきいてすごく胸が熱くなりました。自分が訪問看護していたことや、家族が亡くなった時のことなど思い出していました。今まで経験したこと感じたことなど、これからいろいろ役立てていきたいと思いました。
- ・「緩和ケア」という言葉で、毎日いろいろ考えさせられる会であったり、勇気づけられたり、感動したり、気持ちが動く会です。
- ・様々な事例を通し、自分の看護をふり返り、考えさせられる時間をいただきました。
- ・在宅ケアのスペシャリストの方々の、多くの声を聞いて力をいっぱいいただきました。
- ・色々な方の話が聞けて良かったです。日々、誰もが同じ思いでいる事で、自分の中の不安も少しゆるんだように思います。
- ・事例では皆さん、個別性のある看護をされていること、また振り返りをされ、行った看護を客観的に振り返られていることも素晴らしいと思いました。皆さん「人として」という関わりをされていること強く感じられました。ご遺族だけでなく、医療者もグリーフケアの対象となります。どうぞこれからも素敵なお看護ができますようにと思います。何かしらの応援団の一人になれたらよいなあと感じました。
- ・他のステーションさん頑張ってるなーと感じました。スタッフのパワーの在り様、病院との連携の在り方など改めて考えました。反省と課題発見の場になりました。
- ・訪問看護を皆さんに伝えていただける機会で大変ありがとうございました。このような多職種の方々が集まれる定例会は貴重です。看護協会でも皆様の交流や今回のような本音も語る会を企画していきたいと思います。訪問看護を行っていて主治医、介護スタッフなどと多職種かつ意思疎通を日常的にはかれるような工夫が必要かを感じています。何かできることを皆様と一緒に考えていきたいと思います。

#### 【介護支援専門員、包括支援センター】

- ・看取りを特別なものと思わず、在宅での生活という意味では同じだという視点を忘れずについたいと思いました。死に向かい日々ゆれ動くきもちに丁寧によりそえるケアマネになり

たいと、つよく感じました。

・その人らしい最期のむかえ方は自立支援です。ご本人の思い、ご家族の思い、大きくゆれ動く気持ちを大切により添ったお手伝いを目指しています。本日は訪問看護の方々のお話をお聴きして、とても心強くなりました。これからも、ご本人ご家族を支えるチームづくりのため、この会に参加して勉強していきたいと思っております。

・参加者全員の自己紹介にて、みなさん個人個人あつい思いを持っていること伝わってきました。ぐっと親近感がもてました。

・在宅での看取りを希望していても病状の不安定なところから本人、家族も強い不安を抱えている中で、病状だけでなく本人、家族の思い、本人らしさを大切にした支援をされているのがよくわかった。医療とは分野が違い、敷居が高いと感じてしまうが、今後も勉強のため、できるだけ参加していきたいと思う。

・ありがとうございました。心の洗濯になりました。

・昨年末に圏域ケア会議で訪問看護の利用について理解を深める内容をテーマに行いました。在宅がん緩和ケアにとどまらず、予防的な利用や在宅療養を送るうえでの本人の生活を支える基幹になるのは訪問看護だと、今日の発表をお聞きして改めて思いました。

福祉の専門職として、ご本人、ご家族の声にならない声をくみとり今までの生き方、想いを多職種の皆さんに伝え、ケアチームの想いを一つにできるよう支援させて頂ければと思います。

#### 【歯科衛生士、福祉用具専門相談員、アロマセラピスト、MSW】

・病院ではできない在宅での生活を支援して頂き、報告を受ける度に、退院して良かったなと思っています。これからもスムーズに在宅生活に戻れるよう支援に関わっていきたいと思います。まだまだ至らない点も多いと思いますが、私も成長していきたいと思います。

・前回、今回と訪問看護さんの想い、仕事ぶりを聞けて刺激になります。ケアスタッフの一員としてこれからもがんばります。

・訪看さん達は最期まで利用者さんに寄り添ってケアされているだけあり、心残りや葛藤も大きいことを改めてお聞きできました。利用者さんの生活には欠かせない大変な、そしてとても尊敬できるお仕事です。これからも他の職業にスポットを当ててお話を聞いてみたいで。

・「時代は変わったんだなあ」というのが率直な感想です。私は 20 年ほど前に祖母を自宅で看取りました。がんの全身転移で見つかった時には末期で、余命半年と宣告されました。その当時は、訪問も今ほど普及しておらず、疼痛緩和も認知されていなかったので、祖母も介護する私達も筆舌に尽くしがたい思いで日々を過ごしました。あれから 20 数年…緩和ケアは広く認知され、余命宣告された方でも、自分で生き方を決めることができる様になりました。「看とる人」も「看とられる人」どちらも不安で一杯だと思います。これからは、その不安を少しでも軽くするお手伝いができる様、自分に何ができるか向き合っていきたいです。